

第 3641 図

こばのいらくさ

*Urtica laetevirens Maxim.*

中部以北の山地の溪畔にはえる多年生草本。枝は開出しからまり合う大株となり高さ1m内外、全草淡緑色、茎は4稜性、葉と共に刺されると痛い毛がある。葉は対生、長い葉柄あり、附根に托葉が4枚ある。葉身は卵形乃至三角状卵形で平坦、縁に端正な鋸歯があり、長さ4cm内外、表裏殆んど同色且つ光沢がない。盛夏に各葉腋から花序を出す。多少疎に花がついた穂状の円錐花序で、多くは開出するが垂れ気味のものもある。枝の先端で雄性、下方で雌性である。花は4数から成り、瘦果は緑色で長さ2mm、和名はイラクサに似て小葉を持つ意。

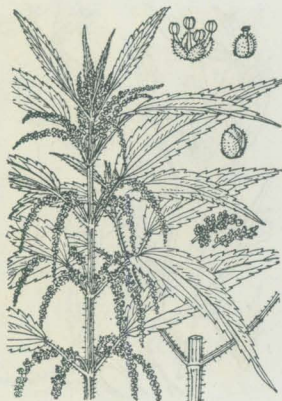


第 3642 図

ほそばいらくさ

*Urtica angustifolia Fischer*

林縁や溝側にはえる多年生草本で高さ1m前後、多少叢生する。四国、九州、南朝鮮に分布するナガバイラクサに比べて全体に強壯多毛粗雑であって、生時稍々淡い緑色で乾くと濃〜碧緑色となるので区別される。葉が長楕円形、4托葉を有する点を除けば、後述のエゾイラクサと区別がない。イラクサ属では対生する2葉間の托葉が癒合して生じたと解釈されるいわゆる葉柄間托葉の存否で種が区別されるが、これは絶対的ではないから、本種がエゾイラクサの個体変異に過ぎない可能性がある。後考を期したい。



第 3643 図

えぞいらくさ

*Urtica platyphylla Wedd.*

中部以北の山地の林下、溪畔の多湿地に叢生する多年生草本で、高さ1mをこえることが多い。全体に淡緑色、乾くと屢々濃〜碧緑色となる。また痛い毛が散生する。葉は対生し、2葉間に葉柄間托葉をつけるが時に割れることがある。中部以下では広卵形で疎大の鋸歯があるが、中部以上では次第に狭く且つ長くなり、長楕円形長さ10cm内外で鋸歯も細かい。盛夏に入る頃、上部の葉腋から穂状の円錐花序を立て、花序全体は白い。上部のが雄性、下部のが雌性、花は4数、瘦果は扁平な卵形で長さ2mm。和名は北海道に多いことによる。



のぐわ

一名けぐわ

*Morus tiliaefolia Makino*

本州西部、四国、九州、朝鮮南部の山地に自生する落葉性喬木で、枝はやや太く粗毛があり、葉を互生する。葉は広卵形で、先端は急に鋭尖し、時に短尾状をなし、基部は深い心臟形、縁辺にやや鈍頭をなす鋸歯があり、稀に3裂又は一方にのみ浅い裂片があって、左右多少不同をなし、上面には粗毛があって粗澁し、下面は毛が多く特に脈上に開出する短毛が密生し、稍長い葉柄には密に短毛がある。雌雄異株。春葉と共に葉腋から柄に毛のある花序を垂下する。花序は円柱穂状で、雌花穂は短かく、4萼片あり、雄花には4雄蕊、雌花には1雌蕊があり、花柱は基部まで2岐し、柱頭は開出反曲する。

第 3644 図



第 3645 図

はちじょうぐわ

*Morus Kagayamae Koidz.*

伊豆七島に産する落葉性小喬木で、材はクワに比して軽粗、分枝多く、褐色を帯び、無毛、高さ数mに達する。葉は有柄、互生し、早落性の托葉があり、卵形乃至卵状披針形で先端は長く尾状に鋭尖し、基部は広楔形又は浅い心臟形で、左右は多少不同、辺縁に鋭尖な重鋸歯があり、往々3裂し、葉質は厚く無毛で、上面の光沢が強い。春、新梢の下方の腋から花序を垂下して淡黄緑色の小花を多数つける。雌雄異株で、雌花は4萼片、4雄蕊があり、雌花も4萼片があり、狭卵形の直立する子房を覆い、花柱は中央部まで2岐し、花後宿存萼片は多肉となって瘦果を覆い、密に集合して楕円形、黒色、光沢の強い果穂を生ずる。



第 3646 図

はりぐわ

*Cudrania tricuspidata Bureau (=C. triloba Fcrb. et Hemsl.)*

朝鮮及び支那に原産する有刺、落葉性の小喬木で、人家に時に栽植される。雌雄異株であるが、本邦には雌木は稀である。多く分枝し、枝は伸びて稍蔓性となることが多く、小枝は往々退化して葉腋に直立する刺となる。葉は互生し、倒卵形、菱状卵形又は長楕円形、鈍頭、基部は円く、往々浅く3裂し、上面は緑色光沢があり、中肋上に少し有毛、下面はやや淡色、細毛を生ずる。雄花序は球状、径1cm以上、淡黄色を呈し、梗は長さ1cm内外、短軟毛があり、花は4花被、4雄蕊を有し、花下に苞が多い。雌花の花被も4個あり、雄花のものより巾が広く、子房を覆い、花柱は2岐し、果時には花被が多肉になり、瘦果を包む。



くらいらくさ

くらいらくさ

くらいらくさ

くわ科

くわ科

くわ科